

Overview

グローバル金融市場の3つのリスク

大和総研 経済調査部 主席研究員 末吉 孝行

2026年10月13日に国際通貨基金（IMF）が公表した「世界金融安定報告（Global Financial Stability Report）」は、グローバル金融市場のリスクとして、①AI投資の調整、②国債利回りの急上昇、③サイバー脅威の深刻化の3つを指摘する。

とりわけ AI 投資には注意したい。同日公表の IMF「世界経済見通し（World Economic Outlook）」が下振れシナリオを示している。AI 投資による生産性向上が期待ほど実現せずに収益見通しが悪化すれば、特に米国で設備投資の急減と株価の調整が生じる。逆資産効果や金融環境の引き締めを受けて内需が減少し、AI 関連財の輸出依存度が高いアジアにも悪影響が及ぶ。その結果、世界の実質 GDP の水準は、リスクが顕在化しない場合を 1.1%下回るという。

国債市場にも火種がある。例えば、フランスでは政治情勢の不安定や財政懸念により国債利回りが騰勢を強めた。加えて、国際決済銀行（BIS）の「年次経済報告（Annual Economic Report）」（2026年6月）によれば、欧州国債の流通市場でのヘッジファンドの取引シェアは50%以上である。米国債市場でも存在感が増しているようだ。ヘッジファンドはレバレッジ比率が高く、金融市場にストレスがかかると一斉に巻き戻しが起きて、相場の変動を増幅し得る。

サイバー攻撃は高度化しており、既に金融安定における脅威となっている。急速なデジタル化に伴い、金融機関は決済や融資、預金などの中核業務においてクラウドやソフトウェアを含む IT サービスへの依存を強めている。少数の IT 事業者が提供する基幹サービスに金融機関の利用が集中すれば、1つのサイバー障害が複数の金融機関に同時に波及する可能性も高まる。

これらが相互に関連し、悪影響が増幅される懸念もゼロではない。今のところ大きな混乱は見られず、過度に恐れる必要はないが、適切な注意は払っておくべきだろう。

主要国実質 GDP 見通し＜要約表＞ (2026年10月22日時点)

(%)						(前年比%)							
	2025年	2026年				2027年			2024年	2025年	2026年	2027年	
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	(下線及び斜字は年度)				
日本	1.1	1.9	1.4	-1.1	0.6	0.7	1.2	1.1	0.1	1.2	0.7	0.7	
									<u>0.7</u>	<u>0.9</u>	<u>0.7</u>	<u>0.8</u>	
米国	0.2	2.5	2.2	2.6	2.0	1.9	1.9	2.0	3.0	2.3	2.3	2.1	
ユーロ圏	0.9	0.0	2.6	0.6	0.8	1.1	1.2	1.3	1.3	1.2	1.0	1.1	
英国	0.0	2.6	2.1	1.7	0.5	1.2	1.5	1.4	1.1	1.2	1.4	1.3	
中国	4.5	5.0	4.3	4.5	4.5	4.3	4.4	4.5	5.0	5.0	4.6	4.4	
ブラジル	1.8	1.8	2.0	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.	3.4	2.3	1.9	1.8	
インド	7.7	8.6	7.8	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.	<u>7.2</u>	<u>7.8</u>	<u>7.0</u>	<u>7.0</u>	
ロシア	1.0	-0.2	1.3	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.	4.9	1.0	0.5	1.4	

(注) 色掛け部分は予想値、それ以外は実績値。四半期伸び率は、中国、ブラジル、インド、ロシアは前年比、それ以外は前期比年率。

(出所) 各種統計より大和総研作成